

内なる人は日々新た

近藤正子

過日、私の長女が友人から手紙がきたと言って持って来て。開いてみると、十年ぐらい前の私の著書『神さまとの対話』を長い間、本棚に置いたままになっていたが、最近思い出して読んだという。

「読んでいるうちに聖書に関心を持ち始め、三浦綾子さんに惹かれました。これから聖書と『氷点』を購入して読むつもりです」

こういう手紙であった。私も長女も何人かの方に本をさしあげたが、こんな手紙をもらったのは始めてであった。きっと主が私に励ましを与えて下さったのだと、雷に打たれたように衝撃が走った。

私などなんの役にもたっていないと思っていたのに、主が私をせきたてていらっしやると思うと、じっとしていられなくなり、もう一度お役にたつような文章を書こうと思った。そして文章の通信講座に申し込み、目下勉強中である。

最近、膝や腰が痛く歩くのも苦勞しているので鬱々していたが、勉強をはじめてもつと

主の聖旨に適うような文章を書きたいと思うと、急に元気が出てきた。

聖句カレンダーをみるとこう書かれている。『たとい私たちの外なる人は衰えても、内なる人は日々新たにされています』（Ⅱコリント・二四・16）

明日の聖句はこうなっている。

『聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、あなたがたは力を受けます』（使徒の働き一章八節）